

全国 YMCA ユースチャレンジ 2021 ホームページ公開用報告書
YMCA せとうちリーダー会 「環境倫理トレーニング」

1. プロジェクト概要と実施内容

【経緯・目的】

YMCA せとうちでは、野外活動やキャンプなどの野外教育の場で自然に触れる機会が多くあります。例えば、川遊びをしたり、どんぐり、木の実などの自然のものを拾ってクラフトをしたりと当たり前のように自然の中で活動しています。しかし、普段の活



動を振り返ってみると、きれいに咲いている花をちぎったり、川に石を投げ入れたり、木を動かしたものをそのままにしていたりと、何かしら自然を破壊してしまっていることが少なからずあったように思います。このことから、日常的に野外教育をしているリーダーとして、自然の環境に与える影響を最小限に抑えるために必要な知識や技術を体験を通して身に付けることで、日々の生活に活かしていくことや、活動の中でメンバーであるこどもたちに伝えていくことで、環境倫理における知識などを次世代へと継承していくことを目的として実施しました。



【概要】

2021 年 10 月 24 日（日）岡山県にある国立吉備青少年自然の家で「Leave No trace Japan」の理事である神戸 YMCA の阪田晃一氏に協力を依頼して、「野外活動における環境リテラシー」についてのワークショップをリーダートレーニングと兼ねて 51 名のリーダーが参加し、実施しました。

当日は午前中 YMCA せとうちのリーダートレーニングを行いました。午後から神戸 YMCA の阪田晃一氏に来ていただき、「環境倫理トレーニング」を行いました。まずは、経験者チームと初心者チームに別れて火起こしをしました。初心者チームにはマッチが渡され、経験者チームにはファイヤースターターと棒を使って摩擦で発火させる火起こしにチャレンジしました。火起こしのための火起こし、ではなく「なんのために火起こしをするのか」ということを考えさせられました。昔の人は生活するために火は必要不可欠で、「火を起こす」のではなく「火を作る」という表現のほうが合っているということを教わりました。



その後は、グループごとに、5分間で一つの動作をする（例：一歩歩く、起き上がる、など）という課題をもらい、グループごとにチャレンジしました。人間の速さで動くのではなく、自然（森）の速さで動くということを体感しました。



2. このプロジェクトを通じて考えたこと

環境倫理について、今まで活動や日常生活を通して考えたことがなかったので、新しい発見が多かったです。まず、初めに火を起こす課題を与えられました。火を起こすことに対しても、様々な方法があり面白かったです。現在では、電気やガスなどがあり、とても便利な生活を送っているが、昔の人は、料理をするためやお風呂を沸かすためなど、様々な生活場面で、火が必要で登場してくることを知りました。人間が自然の中で生きてきた歴史を感じることで、人間中心の世界でなく、人間が自然や大地の一部という立場にたった世界のありようについて想像し、どのようにその課題と向き合っていくかについて深めることができ、新しい角度からの発見がありました。

以下、参加者の感想です。参加したリーダーたちが、難しいながらもそれぞれいろんなことを感じ取ってくれたので、実施した意義があったと思います。自然の中で生かされていることを忘れずに今後の活動に取り組んで行きたいと思っています。

（1年生リーダー）

少し難しい話だったが、人間のエゴによって環境のあり方を限定したり変えたりすることは、良くないことであると思った。環境に対して自分たちに何ができるのかを考えることで、環境倫理に基づいた行動になるのではないかと感じた。さらに、大学生の私たちにとっても難しい話だったので、こどもたちにどのように伝えればいいのか課題の1つになってくるのではないかと考える。しかし、活動を通してこどもたちに環境の大切さなどわかってもらえるように、リーダ

一が環境や自然について知っておくことは、とても大切なことであるとわかった。

(2年生リーダー)

活動の中で、火起こしを自分たちで体験する場面があった。そこでは、リーダーの経験が長いリーダーと、入ったばかりで経験が少ないリーダーとのグループに分かれて、火起こしを行った。私は経験が少ない初心者のグループであったので、火といえば燃やせるものがあれば付くだろうと思い、小枝や木を探しに行き、集めて、マッチで火をつけたが、すぐに消えそうになってしまって、何が問題であるか、わからなかった。しかし、講師の先生に木や枝を組むコツを教えてもらい、少し火を長く持たせることができたので、野外調理やキャンプファイヤーなどのこれからの活動で生かしていけるように知識を深めることができた。

(3年生リーダー)

今回の環境倫理のトレーニングでは火起こしについての印象が強かったが、環境についても考えさせられることが多かった。火起こしができることはキャンプに行くにあたり大切なことだが、マッチやライターを使わずに木や縄など自然の物だけで火を起こすことは難しかった。環境倫理について考えると、人が生きていくためには火を起こさなければならないということを知り、今回のトレーニングの大切さを知った。自然には様々な感性があり自分たちのことを人間と思っている私たちも他の生き物からしたら人間ではなくただ自分を狙っている生き物としか思われていないというところが印象に残った。この地球は全て人間を中心に動いているのではなく、それぞれの生き物が自分たち中心で動いていて、自分が偶然人間だったただけなんだと思った。難しい話や体験であったが、自分が今まで考えたこともないようなことや改めて考えるとそうだなと思うことなど新しいことだらけの活動で様々な考え方をすることができるようになった。

(4年生リーダー)

今回、お話を聞き、自分で体験した中で特に印象に残っていることは、「森（自然）の時間を体験する」ことである。5分という時間をかけて、一步踏み出すことは簡単そうに思えても実際は難しく、色々なことに気づいた。特に、自分が思っている以上に、人として無意識に行動していたんだなと感じた。普段どのように身体を使っていたのか分からなくなり不安に思うこともあったが、片足に力を入れて大地を踏んでいる感覚や目の前に見える竹の葉が揺れている姿を見ることなど、普段なら絶対気づかない感覚や見え方を体験し、面白かった。人からすると、一步など意識もとめない程度の行為かもしれませんが、自然にとって、自然の中に流れている時間にとって、それは、大きなインパクトを持つ行為なのかもしれないと考えた。また、話を聞くだけではなく、なぜなのかを話し合ったり火起こしなどをしたり、自分の体験としての学びをさせて頂いたことで、自分の感覚や感じ方を通して森を知ることのきっかけのようなものを掴めたような気がした。しかし、今回学んだことは本当に序章にすぎないもので、これから活動の中でも、知ろうとすることを辞めずに、自然との関わりに向き合ってみたいと思った。

3. 今後、ユースチャレンジを希望する人へのアドバイス

なぜ実施したいと思ったのか、今後の活動にどのように生かしていけるのかを具体的に、応募したら良いのではないかと思います。今回の環境倫理のリーダートレーニングでは、こどもたちの野外教育を支えていく大学生のボランティアリーダーとして、知識を深めて活動に生かしていきたいという思いで、応募しました。「ユースチャレンジ」は、全国の YMCA の方々とつながることができ、人との新しい出会いも魅力の一つだと思います。そこでは、様々な方が支え、サポートしてくださるので、ユースのみなさん自分たちの「やってみたい」、「チャレンジしたい」という思いを大切にしたいので、言葉にして伝えていければいいと思います。